

文芸

短歌



岩田慧 (いわた・さとし)

1984年東京生まれ。15歳で統合失調症を発症。日々症状と格闘中。精神疾患向けの情報誌「こころの元気」2015年11月号の表紙を飾る。埼玉県所沢市の喫茶店「颯莖扉(しのひ)」で自主制作の短歌集を販売中。



邪魔をする過去に見たもの
経験がお陰で一步
進めずにいる

メンタルを病んでいるから
話しよう思われるのか
思うと怖い

大丈夫今は辛いが
我慢する少しずつでも
良くなっていく

変なこと言ってくる奴
全部無視 出来たらどれだけ
楽になるのか

はした金稼ぐためする
短期派遣 気負わずやって
欲しいもの買う

詩

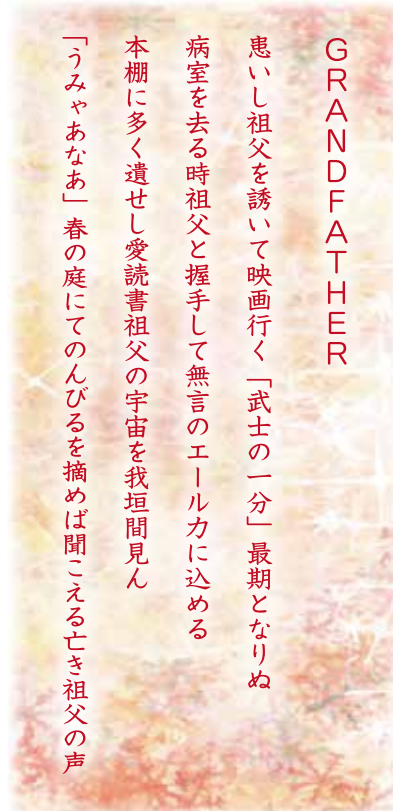
薔薇の墓標
薔薇を海に供えたよるをさかのぼって、
あかい触手が闇と記憶をとらえた。
砂漠に咲いたささやかなことばは
くらい胎内に死を慕いもとめて、
曼珠沙華さき乱れるあの村に
きみを連れていってしまった。
誰もいない窓際の置き手紙
あの薔薇が海になるために、
砂漠に眠る数え切れない朝は
いつ目覚めるだろうか。

吉岡卓 (よしおか・たく)

1969年愛知県生まれ。埼玉県在住。先天性脊椎損傷。高校時にアナキズムに接近し、黒田喜夫、石原吉郎から強く影響を受けて詩作を開始。キリスト教の洗礼を受け、2004年に日本ルーテル神学校に入学し神学生生活をおくるが、2008年に双極性障害Ⅱ型を発症し断念。16年に日本聖書神学校に入学し現在に至る。大衆文藝ムジカ04号に作品を掲載。



短歌



GRANDFATHER

患いし祖父を誘って映画行く「武士の一分」最期となりぬ
病室を去る時祖父と握手して無言のエネルギーに込める
本棚に多く遺せし愛読書祖父の宇宙を我垣間見ん
「うみやあなあ」春の庭にてのんびるを摘めば聞こえる亡き祖父の声

富士市主催 ふじ市民文芸
「奨励賞」受賞作品

藤本茂
(ふじもと・しげる)

1981年 静岡生まれ。35歳の時、発達障害と診断される。短歌を詠みはじめたきっかけはテレビでみた歌人、俵万智さん。それ以来、自己流で作歌活動をしている。富士市主催の「ふじ市民文芸」で四度「奨励賞」を受賞。